



D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N° 82 juin 2008 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

7月13日

2008年度総会と「パリ祭」パーティー

記念講演 〈パリジャンの本音〉 県立美術館長 井上隆邦氏

日仏修好150周年を迎えた今年の三重日仏協会・総会行事を下記のように開催いたします。お忙しいとは存じますが曲げてご出席ください。なおdoncのこの記事をもちまして案内状に代えさせていただきますので、同封のハガキで必ず出欠のご返事をお願いいたします。

7月13日(日)

| | |
|----------|----------------------------|
| PM 2時30分 | 受付開始 |
| 3時 | 年次総会 |
| 3時30分 | 記念講演（無料・一般公開） |
| 5時 | パリ祭パーティー（会費 6,000円、夫妻割引あり） |

会場 津都ホテル5階

今年の記念講演は、今夏「金刀比羅宮・書院の美」展（三重のあとパリのギメ美術館へ）に続き「佐伯祐三」展の開催などでお忙しい三重県立美術館の井上隆邦館長にお願いしました。美術の話題のみならず、かつて国際交流基金パリ事務局長として長くフランスに滞在されたご経験から、興味深いお話が期待されます。会員以外の来聴も歓迎いたしますので、お誘いあわせてご参加ください。

〈パリジャンの本音〉

パリジャンは日々、何を考え、どう生きているのか。ソ連崩壊、湾岸戦争時をふくむ4年間、パリに滞在し、現地の芸術家・文化人との交流を通じて見たパリジャンの素顔を点描する。

「どうぞ、一度お試しあれ」 美味しい料理3品

3/9 ドミニク・ドゥーセさん指導でフランス家庭料理講習会

三重に来られて21年になる鈴鹿のドミニク・ドゥーセさん。全国に展開するブーランジュリーのオーナーとして活躍されるお忙しいなか、三重日仏のためおいでいただき、アンディーブ、レンズ豆、フランボワーズなどのフランス食材を使って、簡単でしかも美味しい家庭料理を3品教えていただきました。当日は20人が参加しましたが、皆さんにもそのレシピ（5人分）をお伝えしますのでぜひ挑戦してみてください。

(運営委員・平井由美子)



Gratin d'endive アンディーブのグラタン

| | |
|----------------------------|-------|
| アンディーブ | 5 個 |
| 生クリーム | 200ml |
| 砂糖 | 20 g |
| ハム | 5 枚 |
| シュレットチーズ | 100 g |
| カルバドス酒、 バター、塩、 砂糖、胡椒 | 適量 |

- 1) 塩、砂糖、胡椒少々入れた湯でアンディーブを柔らかくなるまで茹で、水切りしておく。
- 2) フライパンにバターを溶かし、1)のアンディーブをソテーし、塩、胡椒、カルバドスで味付けする。
- 3) 大きめのハムで2)のアンディーブを1つずつ巻いてグラタン皿に並べる。2)のフライパンに生クリームを加えて、少し煮詰めたソースを上からかける。
- 4) チーズをかけて、180℃のオーブンでチーズに焼き色がつくまで15分位焼く。

Potée aux lentilles ソーセージとレンズ豆の煮込み

| | |
|------------------------------|-------|
| レンズ豆 | 250 g |
| ベーコン | 250 g |
| トマト水煮缶 | 1 kg |
| ロングソーセージ | 5 本 |
| ロリエ・タイム、 塩、胡椒、 オリーブオイル | 適量 |

- 1) レンズ豆を1～2時間水に浸けておく。
- 2) 深鍋にオリーブオイルを入れ、ベーコンを炒め、更にソーセージを炒める。
- 3) トマト、ロリエ、タイム、1)のレンズ豆を浸した水ごと加え、豆が柔らかくなるまでふたをして煮込む。(1時間位)



Pomme aux fours りんごのオープン焼き

| | |
|-------------|-------|
| りんご（富士） | 5 個 |
| バター | 250 g |
| 砂糖 | 250 g |
| フランボワーズ（冷凍） | 150 g |
| 生クリーム（8分立て） | 好みで |

- 1) リンゴの皮と芯を取り、一口サイズにカットして皿に並べる。
- 2) 角切りのバターと砂糖を上からかける。フランボワーズを冷凍のまま所々に散らし、220℃のオーブンで約20分焼く。
- 3) 8分立てにした生クリームをかけて食べる。



ところで、ドミニクさんがこのほど素敵な本を発行しました。題して『ドミニク・ドゥーヤのおいしいパン』。彼の33年間のブーランジェ修業の集大成ともいえるもので、家庭でも作れる取って置きのレシピが満載です。問い合わせは鈴鹿のお店 (<http://www.dominique.co.jp> ☎ 059-388-2492) まで。

東京
だより

大廣朋子さんのコンサート

三重日仏会員で結婚後町田市在住のピアニスト大廣（現・橋口）朋子さん出演のコンサートを、同じく会員で佐倉市在住の菅谷光美さんが聴いてレポートして下さいました。

新緑のまぶしい5月23日、東京オペラシティー・リサイタルホールで開かれた「ピアノデュオ・プリランテⅦ」に行ってきました。三組のデュオが、ロマン派の作曲家の作品を代わる代わる演奏するという構成。大廣朋子さんは、美しいロイヤルブルーのドレス姿で登場し、パートナーの平澤理恵子さんと共にブラームス：シューマンの主題による変奏曲作品23（1台4手）、チャイコフスキー：組曲《くるみ割り人形》作品71aよりを見事に演奏されました。



大廣朋子さんとは、長年津市のフランス語会話の教室で、週に一度は顔を合せていた間柄ですが、彼女が東京、私が千葉に住む現在、お互い忙しいこともあり、なかなか会う機会に恵まれません。そんな中、一年半前に彼女から久しぶりにコンサートのご案内を頂いた時には、心から嬉しく思ったものでした。普段教室で接する大廣さんも素敵でしたが、やはりファンとしては、ステージでピアノを奏でる彼女の魅力あふれる姿を見たいものです。

開演前に、いつもお優しいご主人と、来年小学生になる可愛いお嬢さんにもお会いできました。

コンサートは、全体としても素晴らしく、6人の演奏家は個性豊かで、その調べは時に優雅に、時に力強く、時に悲しく、それぞれの組合せによる多彩なピアノの響きにすっかり魅了された私は、半ば夢見心地で帰途についたのでした。次回の予定は、2009年秋とのこと。ますますのご活躍を期待しています。（菅谷 光美）

写真：右から3人目が大廣さん

三重日仏協会 主催事業

深秋のブルゴーニュ散策 ～ボジョレーヌヴォーを現地まで～

フランスの秋は日本よりもずっと早くやってきます。遅い朝、早い夕、でもそこには年に一度の実りの秋の宝物がたくさん。今回は美食と歴史の地方ブルゴーニュを中心にリヨン、パリと巡る旅です。リヨンには三重日仏協会とご縁のある方がたくさんみえ、交流も予定しております。

現在予定している旅程；11月18日(火)名古屋・発、25日(火)名古屋・着、6泊8日

| | | |
|------------------------------------|---------------|-------|
| 18日 | 夜 リヨン着 | リヨン泊 |
| 19日 | 終日 リヨン | リヨン泊 |
| 20日 (ヌヴォー酒) <small>(解禁)</small> | ブルゴーニュ小さな村めぐり | 田舎の村泊 |
| 21日 | ブルゴーニュ小さな村めぐり | 田舎の村泊 |
| 22日 | 午後パリへ | パリ泊 |
| 23日 | 終日パリ | パリ泊 |
| 24日 | 午前 帰路 | |

*参加費用は、およそ25万円くらいを予定。お問い合わせは滝澤事務局長 090-4867-1476まで。

「交差するまなざし」－日本近代文学とフランス－

柏木隆雄先生ご退官を機に上梓

例年文芸講演会で興味深いお話をうかがっている柏木隆雄先生（松阪市出身）は、今春大阪大学教授の職を定年退官されましたが、「自分の仕事の一区切りになるようなものをまとめた」との思いから、このほど表題の本を朝日出版社から刊行されました。日本文学とフランス文学とを気ままに逍遙してきた40年間の締めくくりとご自身位置づけておられるこの論集には、ここ数年私たちが講演で拝聴してきた日仏の交流やその文学の比較、関連などのテーマが、より詳しくわかりやすく書かれており、一読をお勧めします。

なお柏木先生は4月から放送大学大阪学習センター所長としてご活躍です。

7月22日～27日 鈴木敬子ルリユール教室展 一本のさまざまな装い

本会会員でルリユール（書物の装丁、意匠）の専門家・鈴木敬子さんがお弟子さんたちとともに、この地方では珍しいルリユールの作品展をアスト津で開かれます。

鈴木さんは昨年、ル・リデック大使が来訪された際、夫妻に手作りの作品をプレゼントして喜ばれました。詳細は同封のチラシをご覧ください。

6月29日～8月17日 佐伯祐三展 三重県立美術館

パリを描いて30歳で夭折した天才画家佐伯祐三の没後80年を記念する企画展。その代表作約90点と、彼と交流のあった画家たちの作品約30点が展示されます。

フランス映画の話題作2本相次いで上映（津大門シネマ）

<ランジェ公爵夫人> Ne touchez pas la hache 6月21日～7月4日

ヌーヴェルヴァーグの巨匠ジャック・リヴェット監督が文豪バルザックの名作を映画化。

「リヴェットはバルザックの小説を、映画によって文字通り再創造した」（ユマニテ紙）など本国でも高い評価を受けている作品。ジャンヌ・バリバール、ギョーム・ドゥパルデュー主演。

<譜めくりの女> La tourneuse de pages 7月5日～18日

聴衆の喝采を浴びるピアニストと、かたわらの「譜めくり」という陰の存在。緊張はりつめる演奏会の裏で二人の間にどんなドラマが…

監督・脚本：ドゥニ・デルクール。出演：カトリーヌ・フロ、デボラ・フランソワ